

## 平成20年度第1回川崎区区民会議

日 時 平成20年7月30日（水）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

### （1）委員 20名

弾塚誠、富田順人、菊地弘毅、須山令子、古川博子、長谷川幸子、原田歩、猪熊俊夫、荒井敬八、吉野智佐雄、藍原晃、長島亨、島田潤二、田辺富夫、魚津利興、朴栄子、木島千栄、藤岡玲子、星川孝宜、宮崎とみ子

### （2）参与 8名

市議会議員：岩崎善幸、小林貴美子、坂本茂、佐野仁昭、西譲治、浜田昌利、宮原春夫  
県議会議員：武田郁三郎

## 1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

## 2 委嘱式

区長 <各区民会議委員に委嘱状を交付>

## 3 区長あいさつ

## 4 議 題

### （1）委員長、副委員長の選出

事務局 委員長、副委員長の選出を行う。川崎市区民会議条例第5条に「区民会議に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。」と規定されている。また、川崎区区民会議要綱第7条では「条例第5条に規定する副委員長の人数は2名とし、委員長の職務代理はあらかじめその指名する副委員長が行うものとする。」と規定されている。

本日の会議を円滑に進行するために7月18日に行った事前説明会で、あらかじめ話し合いを行った。結果、第1期に引き続いて魚津委員に委員長を、弾塚委員と荒井委員に副委員長をお願いしてはどうかということになった。この場で正式に委員長、副委員長に選出してもよいか。

各委員 異議なし

事務局 <委員長、副委員長がそれぞれ委員長席、副委員長席に移動し、就任のあいさつを述べる。以後の議事進行を委員長に依頼する>

委員長 最初に、私の職務代理として、第1期に引き続いて弾塚副委員長お願いする。

## (2) 川崎区区民会議運営要領の確認

委員長 事務局から説明をお願いします。

事務局 川崎市区民会議条例第12条には「区民会議の運営に関し必要な事項は委員長が区民会議に諮って定める。」と規定されている。川崎区区民会議運営要領は、第1期川崎区区民会議の第1回全体会議に諮って制定したもの。本日は第2期区民会議の第1回目の会議なので、修正が必要な箇所がないかを確認していただきたい。

委員長 何か意見はあるか。なお、会議運営上、この運営要領で進行できないような場合は、その都度、会議で諮って決定したいと思っているが、いかがか。

各委員 異議なし

委員長 第2期もこの要領で区民会議を運営する。

## (3) 審議課題の選定

委員長 委員にはあらかじめ審議課題調査を実施して、それをもとに事前説明会で地域の課題に対する考えを発表してもらった。それらを踏まえて議論の上、審議課題を決めた。事務局に説明をお願いします。

事務局 7月18日の事前説明会の後に、委員長、副委員長と打ち合わせをし、審議が円滑に進むよう整理、集約した資料を作成した。資料1では、審議課題を趣旨に共通性や関連性があるものをまとめ、AからDまで4つに審議テーマをまとめた。Aは、子供やシニア世代、外国人市民、区民の団体など、地域で暮らしている、あるいは活動しているさまざまな主体に関係したテーマ。Bは、安全・安心。防災や防犯といった種類の違いや、子供の安全・安心、交通の安全・安心といった対象の違いなど、さまざまな視点がある。Cは、区民にも区外の方にも区によい印象を持ってもらおうという趣旨のテーマ。Dは、環境問題やエコ、節約といったテーマ。

審議課題の内容は資料2で要約している。また、資料3は審議テーマA、B、C、D、それぞれの名称の案となっている。

委員長 今まで2年間やってきて、最初にたくさん抱え込んでもなかなか難しいと感じているので、できることなら今年度はその4つの中から2つくらい進めていったらどうかということ。何か意見はあるか。

委員 私は暮らしやすい地域をつくるために「自転車マナーアップ」をやりたいと思っている。論点としては区民のマナー意識の向上、交通安全や放置自転車などの対策。

子供や若い母親の自転車のマナーの悪さが目に付く。自転車事故が多い川崎区としては、事故を起こさないように、どうしたら事故が起きないのかと考えていかなければいけないと思う。歩道の狭い道路には、車道に自転車道を設けて通行させる、一方通行制にすれば事故も起きないと思っている。

委員長 自転車のマナーアップに関しては、審議テーマCのグループになっている。「また訪れたいくなる街かわさき」「区の魅力を発信しよう」「みんながあこがれる街」「区民が誇れる街をつくろう」「ごみのないまちづくり」「観光の視点で考える魅力的なまちづくり」などのテーマ名称の案があるが、資料3から見てこんなのでどうだという意見はないか。

委員 私の持ち場はCの分野と思っているが、Aのテーマということでだと「いきいき生活できるまちづくり」が適切という感じがする。

委員長 審議テーマBでは防災などが出ているが、その中から選ぶとするとどうか。

委員 Bもやるわけか。

委員長 A、B、C、D全部のネーミングづくりをする。これを年度で2つずつやるということを持っていきたいなと思っている。

委員 Bというと、私の立場からすると防犯活動、自転車マナーアップ、高齢者の歩きやすいまちづくりが大事だと思う。また、商店街の中ではサインが非常に少なく、他都市の方が商店街に来てもし災害に遭ったとき、どこに避難したらいいかというような問題も含まれていると思う。そう考えるとBの「地域の安全を守る」が、ふっと見て、他府県から来た人たちに一番印象づけられるのかなという気がする。

委員 今、Bのテーマで「地域の安全を守る」という話があったが、地域全体を安全にするとなると、Aのテーマ言うで「みんながつながる」必要性があると思う。どのテーマもみんな関連性はあると思うが、やはりいろいろな分野の人がつながってまちづくりをしていくことで、地域の安全が守っていけるのではないかと思う。

委員 先ほど委員長が、今決めるべき審議テーマは2つくらいと言われたが、年間を通じてのテーマとして2つなのか。第1期では1つのテーマに対して専門部会を2つつくったが、そういう理解でいいのか。

委員長 前半の1年については審議テーマを2つぐらいに絞って、それぞれ1つのテーマで1つの専門部会と今のところは考えている。

委員 先ほども意見が出たように、川崎は平たんなところで、地域差はあるが自転車がほとんど生活の重要な部分を占めている。免許制度があるわけではなく、自転車も自動車と同じで左側を通行することも徹底されていないし、事故が多い。特に子どもを前と後ろに乗せて走行している人がいるのは危険だ。車いすの方への影響もあるし、いろいろな問題がある。区の統一テーマとして、警察と一緒に、今までの対策を見直して徹底的向上を図った方が良い。区民の自転車安全走行実施運転を採り上げてはどうか。

区民全員が1つの目標を持ってできるというのが区民会議で一番大事だと思う。個々の地域によってはいろいろな問題があると思うが、区民の人が1つになって解決していくというのが大切だと思う。

委員 私も今の意見に賛成だ。1つの問題を徹底的に取り上げて頑張る方が良いと思う。自転車のマナーについては「高齢者、障害者が快適に暮らせるまちづくり」「防犯活動」「地域防災」などいろいろな問題に絡んでいるので、徹底的に決まったルールで自転車を使用する方向に持っていくと良いと考える。

委員 大きく括ると、審議テーマAは地域の環境とか文化が中心。Bは地域の安全が主なテーマだと思う。Cはマナーとか優しい心といった心の問題がメイン。Dは主に地球環境のことと思うので、川崎の地域ということを考えるならば、AとBか、あるいはBとCでいけばいいと思う。

委員 私は町会関係者なので、町会が住民の方々にとって頼れる存在でなければと考えていて、結果的にはこれが町会加入の促進ということになると思っている。

区の中にはいろいろな組織がある。例えば先ほどの自転車の問題については、交通安全対策協議会というのがあり、そこで実施される幼稚園から小学校を中心にした自転車のマナーに対する指導、これは警察や学校も関係している。

1つの流れが途中で切れてしまうことが問題だと思う。例えば私が関係している地域教育会議があるが、そこで実際に活躍している人たちが、PTA関係であるとか、地域で子供の勉強を指導しているとか、防犯などいろいろなものに関係している。ただ1つの役をやってあとはどうでもいいというのではなく、町会の中で1人の人が場合によって少なくとも2役、3役とそれぞれの役を兼ね備えて活動していると、複合的な効果が出てくる気がする。

結局魅力あるまちづくりのためには、それぞれの組織を洗い直して点検をすることが必要だと思う。そしてもう1つ、それぞれの人が立場を超えて、それをどう融合していくかということが重要。それを誰が差配するかについて、行政であるのか、私ども住民の代表がやるのかという面を整理する必要がある気がする。

委員長 A、B、C、Dとあるとネーミングといってもなかなか難しいと思うが、先ほど委員からも発言があったように、Aは文化関係、Bは安全・安心、Cは自転車関係のマナーなど、Dは環境問題ということで、今日のところは皆さんから出たテーマを4つにまとめている。4つ名前を決めるのは難しいということならば2つ、文化面と安全面で行くとか、先ほどからよく自転車のことが出ているのでそれに絞って行って、あとについては次年度にまた話し合っていくことも考えているがいかがか。

A、B、C、Dのうち、皆さんからこれをやったらいいのではないかという意見があればありがたい。私の感じているところではBとCの意見が出ていると思うが。

副委員長 Aのところは「地域力をとりもどそう」というテーマがすべてを包含している気がする。審議テーマBでは「誰もが安心して暮らせるまちづくり」、これがまとめた言葉になるのではないか。審議テーマCでは「区民が誇れる街をつくろう」、審議テーマDでは「地球環境とエコに取り組む」がいいのでは。

AとBを合わせると「誰もが安心して暮らせるまちづくりのために地域力をとりもどそう」というテーマになり、CとDを合わせると、「地球環境とエコに取り組む」ことで「区民が誇れる街」をつくる、となる。地球環境とエコというのは国政のレベルではあるが、家庭の1人1人がエネルギーの消費を少なくしようという力がなければうまくいかない。地域環境とエコに取り組む区民、こういうところで川崎区民が誇れるまちにつながるのかなと。

2つ大きな意味でのテーマ名称ができたと思う。そしてこのテーマでできたグループの中で討議されるのは、それぞれテーマに沿った部会の中で細かいものを取り上げてい

ってまとめていく方法がいいのでは。参考までに。

委員 副委員長の言うように「区民が誇れる街をつくろう」ということだと、自転車の問題なども全部入ってくると思う。このテーマならばエコにも取り組んでいけると思うので、いいテーマではないか。

委員 安全なまち、自転車マナーのいいまち、いろいろあるが、それを今度はどう市民や市外に発信していくか、これも非常に大事なところだと思う。

特に川崎はギャンブルのまち、公害のまちというマイナスイメージが全国的には非常に強いので、自転車マナーやエコなど、いろいろなことで努力しても、ほかの都市から川崎をまねしてみようというところまでいくのかどうか。やはりそれに並行して、川崎というのは魅力のあるまちです、歴史のあるまちです、あるいはマナーのいいまちです、エコに努力しているまちです、そういう情報を発信していくことも非常に大事なのでは。

私は、かねがね川崎に情報発信拠点が必要だと思っている。何もハードウェアをつくれということではなく、官民一体になって知恵を出し合って、どういう形で情報を発信していくのがベストなのかを考える、そういうことも非常に大事だ。皆さんの取り組んだことをどう今度は内外に発信していくか、これも忘れてはいけない部分だと思う。

委員長 第1期でイメージアップをやったときには、たまたまアメフトのワールドカップがあったので、川崎に来た人を迎える意味でも少しでも地域をきれいにしようではないかと取り組んだ。先ほど委員から意見があったように、もともと余りイメージがよくないところだから、少しでもイメージアップということで皆さんに協力いただいてやってこられた。今後もそれをやめるのではなく、商店街を花で飾る取り組みについてはまた委員にお願いして続けていただくことになっているので、それはそれで非常によかったと思っている。

委員 私はいつも町会のことで頭がいっぱいなのだが、町会の加入が今、川崎区で65%と言われていて、これがどんどん下がっていく傾向だという。いわゆる新しい住民の方が入ってきた際に、町会に入らない。そういった面で、地域に協力するという意識がだんだん薄れていくということになってしまうので、何としても町会に入ってもらいたい。そのための課題は、AからDの中にどれを早く取り組んでいけば一番有効なのか、教えていただきたい。

委員長 それは大変難しい課題なので、委員が一生懸命やっていることを私が簡単に答えることはできない。

いろいろな意見をいただいているが、審議テーマのAにもあるように、地域力を取り戻して、だれでも安心、安全に暮らせればということになっていると思う。

委員 私は川崎市民になってからまだ10年しかたっていない。長く住んでいる方からしてみると、川崎区は昔公害があったなどの悪いイメージがあって、それをイメージアップしたいという気持ちがあるのも非常によくわかるし、私も川崎市というのをある意味でそういう目で見えていた時期があった。ただ、川崎市は通勤に便利で、緑を増やそうという努力もしているなど、魅力があって住んでみたいと思ったから10年前に移ってきた。私が移ってきてからもマンションがたくさん建っていて、そういう意味では、新しく越してきた方というのは何らかの魅力を発見したからそこに住んでいる。

先ほどの情報発信の拠点でありたいという言葉に非常に共鳴した。審議テーマCの2つ目に「区の魅力を発信しよう」とある。住み始めて間もない人がどうして川崎区を選んだのかというような新鮮な目を、その魅力というのを情報発信に乗せていく。もしくは古くから住んでいる方感じている魅力、それをさらに引き継いでいくという意味で「区の魅力を発信しよう」というこの言葉に非常に引かれた。

もう1つ引かれたのは、審議テーマAの「みんながつながるまちづくり」という、「つながる」という言葉。委員の名簿を見ると、いろんな団体、いろんな目線の人が集まっていて、こういう人がつながるのはすばらしいことだと思う。またシニア、子どもといった、年代のつながりということも重要なこと。

また1つ、この区民会議が2期目に入ったところで、せっかく活動を積み重ねてきているのだから、そうしたここにいる私たち自身の活動のつながりというものも非常に重要なので、「みんながつながるまちづくり」ということにも魅力を覚える。

今回第2期委員の公募があって初めて、第1期の方はこんな活動をしていたのかというのを知った。そういう人がまだまだいるであろうことを考えると、区民全員で、例えば自転車の放置問題に取り組むにしても、現状1,000台あるものを500台にしようとか、数字で見える、目で見える、みんなで観察できる、参加したいときに参加できるといった、非常にわかりやすい目標を立てられるような審議テーマを1つはつくってみたいと思っている。

委員 私も「みんながつながる」という言葉は、世代を超えて1つのまちづくりをしていくという意味を含んでいてとても良いと思った。

私は必ず区民会議で提案してきてほしいと言われていることがある。それは、地域で子供たちの遊ぶ場所がないこと。ふれあい館という場所はこども文化センターでもあるので子供たち、特に中学生が行く場所がなくてたくさんやってくる。公園は結構制約があって遊ぶことができないということだ。うちの地域では野球場の開放を一生懸命お願

いして試行しているところだが、そういう子供の居場所、安心して遊べる場所を地域のみんなで確保していく取り組みを区全体でやっていくことができないだろうか。安心して遊ぶ場所がないので、こども文化センターの中で子供たちが暴れている。あのパワーを外で思い切り発散することができたら、もっと生産的なものができると思う。次世代を背負っていく子供たちが、ここで育ってたくさんおもしろい遊びができてよかったと言える地域になっていったらすてきだと思う。

空き地として最適な野球場に鍵が掛っている。区民の開放日をつくってもらって、あの野球場を上手に使えるようにしたい。高津には夢パークのように大人が見守ってくれて子供が自由に遊べるような空間がある。そんなことが川崎区でもできたらすてきだと思う。大人が見守って子供たちが楽しく遊べるような、そういうつながりを持った地域をつくっていけたら良いと思うので、「みんながつながるまちづくり」というのがとても良いと思う。

委員 私自身この年まで地域で生まれて生活をしている。やはり地域というのは世代を超え、次の世代にいろいろな形で地域を残していかななくてはいけない。それには我々の世代やもう少し若い世代などがつながっていかなくては、地域というのは発展していかないと思う。今の遊び場の話もそうだが、我々世代が次の世代を担う子供たちとよき連携がとれる策を練っていく必要がある。地域の中には私たちも、私たちの子供たちも、その子供たちも住んでいる。その連携、縦のつながりをつくっていくことがまちを繁栄させるには一番だと思う。例えば自転車の問題でもそれをみんなで取り組む、その中には若い世代の親、中高生、子供たちを取り込んでいくというのが必要だと思う。

同じまちに住んでいて話ができない環境というのは決していいことではない。話ができるきっかけづくりというのは、一緒に何かをやって、そこでまずきっかけをつくって話ができる関係をつくっていく必要がとてもあると思う。

だから、それはもうすべてここに網羅されていると思う。自分たちの住んでいるまちの歴史も1つだと思う。やはり次の後世に残していかななくてはいけない。そういういろいろなものは今見ても全部必要性のあるものばかり。だから、同じところに住んでいてつながりを持つきっかけというところに絞って、そこできっかけづくりをしていて、我々の世代が次の世代に声かけをできるよう、話ができるような、そんな関係づくりができたらいと思う。

委員 先ほど公園の話が出た。小田まちづくりクラブでは5年前ぐらいから、野球場の芝生部分を週に1度、10時から12時まで開放していただいている。周りの保育園から子どもたちが来たり、また地域の方も来る。ボールを使ってはいけないなどいろいろ制約があるので、ただ駆けずり回るということだけだが、最近は長く続けてきてよかったと実



感している。小田地区の町会連合会で見張りを3名ぐらい出していただいている。天気の良い日だと、保育園の子どもが多いときには150名ぐらい来る。1時間も遊ぶと飽きるのだが、それでも外で駆けずり回るといいことだなというのが最近いろいろわかってきた。

委員 もう少し具体性のある何かを1つ課題に持っていったほうが結果を出しやすいと思う。抽象的な話が多くなってしまうと、結果を出しづらくなってくると感じた。私は、今までにない視点から環境が良いと思う。環境問題に取り組むのに地域のつながっていく力というものをつくっていく、それを目標にして少し具体性を持たせて話し合っていたらいいのではないかと感じた。

委員 僕が1つ以前から考えているのは、これだけのメンバーが集まって、はっきり言ってみんな地域の頭だ。人のつながり、人のつながりと言って、今まで何をしていたんだと。結局自転車にしろ、安全なまちづくりにしろ、やるにはこの20人だけではできない。その組織づくりをいかにするかということが大きなテーマで、その組織さえできれば何でもできると思う。

例えば去年ハゲイトウをやった。海風の森をMAZUつくる会の60人ぐらいの会員に話して取り組むことができた。今度は200用意したプランターが自転車で100割られたので木でつくろうということで、企画課と相談して150つくっている。

そういう形で組織さえ動けば、自転車にしろ安全・安心にしろ、どんな問題でも不可能なことはない。うちの近所には小さい信号があるが、ほとんど左右も見ないで行っちゃう人がある。彼らも入れた組織づくりをいかにできるかということ、それをやるのはまず町会。連合町会長はそのために区民会議に出てきているんだと思う。まず連合町会が中心になって、社協や民生委員などをまとめて、それから学校へ呼びかけて、お母さん方や小中学生自身も入ってもらう形で、大きな組織を地域ごとにつくる。それで問題を取り組めば、必ずどんな問題も1年や2年で解決する。

現実に、どこかで自転車が歩道を走って大きな事故が起きるというので、向こう側の道は上りだけ、こっちは左だけだと変えただけで自転車事故が激減したという。そんなことは法令なんか変えなくても簡単にできると思う。たばこなんかやる前にそれをやれと僕は言いたい。

厳しい規則をつくって、それなりの周知するための団体を立ち上げれば、それがさっきから言っている人のつながりだ。間違いなく1つや2つの問題は一遍に解決する。

委員 どういうふうにしていったら効率よく良いまちづくりができるのかなということは非常に難しい。自転車のマナーにしても、臨港警察などでもやっているが、なかなか習

慣になったことを変えるのは簡単にはいかない。

委員 審議テーマがAからDまでたくさん出ているが、これを1つ1つ内容の面で詰めていったらみんな同じところにまとまると思う。「誰もが安心して暮らせるまちづくり」とか「区民が誇れるまちづくり」の中には大体みんな網羅されていると思う。

ただ、「地球環境とエコに取り組む」というのが、今まではこの問題が余り取り上げられていなかったので採り上げてもいいのでは。この人数で何ができるかということを見ると、掲げるだけでいっぱい掲げて何もできないでは困るので、絞って取り組んで成果を上げていったらいいと思う。

委員 集約すると、「地域力をとりもどそう」というテーマと地球環境という2点に絞られていくのかなと感じている。

下丸子あたりの水辺にアユが遡上しているという話を聞くが、アユは川崎側の入り口から上がってくるわけで、川崎から海辺の羽田側の入り口あたりも水が確かにきれいにはなっている。ただ東京の湾内にはまだヘドロが非常にたまっていて、江戸前の魚がなかなかとれないという状況があるらしい。横浜国立大学の研究所では、実際にそういった水質検査やヘドロの研究もしている。そういったデータをもとに区民に水に関してもっと関心を持ってもらって、小学校やPTAが環境に取り組んでいったら、つながりやみんなで行き来するというような姿勢が1つのテーマによって達成されるのかなという気もする。

副委員長 今住民の方々が一番心配しているのは安全で安心して暮らせる環境じゃないかと思う。そのための方策にはいろいろとあるが、どれをまず最初に手をつけていこうかということが重要だ。

委員 川崎区は外国人の居住人口が一番多い割に、外国語による表示面とか案内面は劣っていると思う。また、少子高齢社会ということで、シニアの方々の活躍の場をつくらせていきたい。そういうことを合わせると、「地域力をとりもどそう」とか「みんながつながるまちづくり」、そのあたりの比較的大きなテーマの中に包含されるなという気がする。

一方、やはりエコの問題、地球環境の問題は国レベルの問題であると同時に住民レベルで取り組むべきかだと思える。具体的な数字としてあらかしやす部分もあり、取り組んではいかがかと思う。

#### (4) 専門部会の設置

委員長 「地域力をとりもどそう」という話が出ているが、これをずっと掘り下げていくと、いろいろなところに当てはまることだと思う。安全・安心については第1期でやった経緯があるので、「地域力をとりもどそう」「みんながつながるまちづくり」を1つのテーマ、もう1つは今まで取り組んでいない地球環境・エコということでやったかどうか。私としては、とりあえずあと2つを選んで部会をつくって、そこでネーミングだとか、地域力の中でも自転車が一番大事じゃないかということの中で絞って議論していただきたいと思う。意見はあるか。

委員 地域力というのは抽象的になってしまう恐れがある。教育委員会の分野で社会教育委員会というのがあって、そこでは地域の力とは教育力と言っている。教育力というのはどういう分野に絞っていくかと言うと、地域教育会議に大体話を持ってくる。この中にはいろいろと環境の問題なども入ってきている。そういう中に地域の団体が参加して、ボランティア活動をしていく中で地域の力が上がっていくということ。

ただ、一般的に町会ということになると市民局を中心にした流れで、地域の安全・安心、災害に強いまちであるべきだとか、福祉の問題ではお年寄りがどうしたら安心して暮らせるか、それに対する手助けは一体どうだとかいう話になる。教育委員会の言う教育力と一般的なまちづくりの力とは若干違うと思う。だから、もし地域力ということで話を進めていくのであれば、そういうものを分けて考えて取り組んでいくと良いと思う。

委員長 ネーミングについても、一応地域力とつながりのあるまちづくりとするが、それと環境の2つに分けて、部会で魅力的な名前をつけてもらうことにして、その中でまた絞っていくとか、少し時間をかけてやっていただいたらどうかと思う。

来年のことはまた別にして、やっている間に、もう1年続いたほうがいいのかということになるかもしれない。このような形でやっていくということではいかがか。

各委員 異議なし

委員長 第1期では部会に委員長、副委員長が入っていたのだが、今回少しでも自主的に運営するというので、オブザーバー的には出席することもあるかもしれないが、部会には所属しないということにしたい。ここで環境と地域力の専門部会の構成を決めたい。手を挙げていただいて、数が合わなければ何人かに移ってもらうことにしたいがよいか。

各委員 異議なし

<専門部会について各委員が挙手>

委員長 参与の先生から一言ずついただきたい。

参与 人と人とのつながりが大事だということが大分クローズアップされていた。端的に言って、人と人とのつながりというのはやはりお互いによく知り合っていくことが原則だと思う。今注意をしても、逆に腹を立てて危害を加えられたり、なかなか率直に注意できないという風潮もある。お互いによく知っていれば、聞いてもらえるということもあるわけで、それが地域力につながっていくと感じた。

参与 今後の会議を進めるに至っては、集約をして、そして具体的テーマに絞って話をしていかなければならない、これに尽きると思う。今までの審議委員会と区民会議の一番大きい違いを委員に確認をしていただきたい。区民会議条例には「区における地域社会の課題を把握し、その解決を図るための方針及び方策について調査審議を行う」「市長その他の執行機関は、区民会議の調査審議の結果を尊重し、前項に規定する区長の役割が的確に果たされるための必要な措置を講ずるよう努めるとともに、当該結果を市政に反映するよう努めるものとする」とある。要は区民会議委員の皆さんが一定の結論を出して、答申を執行機関のほうにぶつければ、ぶつけられた我々とか執行機関側はそれを達成するために努力しなければいけない。そういう部分では皆さんの権限というのは非常に大きいものがある。だから具体的に項目を絞って、実のある議論を進めていったほうがいいと思う。川崎区の事務局がきゅうきゅうとするような審議結果を出して答申を出していったらいいのではないかと思う。

参与 私も今父親として地域教育会議に参加をしている。そこで2年前に、中村攻先生という防犯問題に大変な権威の先生を招いて講演を行った。そのときに一番印象に残ったのは、まちの防犯力、安全・安心をつくる上で一番大事なのは、1人1人が無関心であってはならないと。特に昼間仕事に出て行って帰ってくるだけで、まちのことにほとんど無関心なお父さん、お母さんが多いところほど犯罪が起きる件数が増えるという。そういう人に、子どもとのコミュニケーションを通じてまちに関心を持ってもらう、ということが大事だということを聞き、本当にそのとおりだと思った。

今臨港中学校区地域教育会議では、我がまち再発見ということで昨年から取り組みを始めた。昨年は公園問題を取り上げた。子供たちの視線はおもしろいと思ったのは、お年寄りがゲートボールをしているのを見て、何で僕たちはボールを使っちゃいけないのに高齢者の人はボールを使えるのかとか、僕たちに危ないからあっちへ行っちゃだめとか遠くまで行っちゃだめといいながら、自分の近場に遊べる公園がないんだよという声

があった。どうしたらこういう声を生かせるかということでいろいろ勉強した。その中で、ルールがあってボールを使えないわけではなく、町内会と話し合えばそういうルールもつくれるということも子供たちが学んだ。私もこの川崎で生まれてずっと住んできたので、悪いイメージは全然持っていない。そういう意味では自分たちがそういう良いものをどう発掘して発見していくか、それを情報発信していくか、それがぜひ区民会議に期待をしたいところである。

参与 過去2年間、区民会議ではさまざまな議論がなされ、集約されてきた。それが印刷になるわけだが、この印刷から実践、組織化という問題が失われていると思う。継続は力なり、せっかく皆さんの意見が集約されるわけだから、それが言葉から活字に、活字から先ほど発言のあった組織化の問題、1つでも2つでも組織化をしながら実践にどう取り組んでいくか、このことが区民会議の今日課せられた大切な課題ではないかと思う。

委員長 区民会議では前年度も専門部会のほかに幹事会を置いて、委員長、副委員長、専門部会の部会長に出席いただいていた。皆さんでこうやって集るのはなかなか大変だと思うので、専門部会の部会長さんが決まったら一緒に幹事会で出ていただくことをご了承願いたい。

これで本日の議事は終了する。

## (5) 閉会

事務局 ただいまの議論で、テーマについては地域力と環境関係ということで2つに絞られたと思う。専門部会の人数に偏りがあるので、幹事会での調整をもって、条例の規定より区民会議に諮って指名するということがよいか。

各委員 異議なし

事務局 <専門部会の日程調整、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

区長 <お礼を述べる>

午後 8時20分 閉会